

～ 人権・同和教育だより ～

「空に風 人に愛」

島根県立浜田高等学校
定時制・通信制課程

第7号 2021. 10. 29 (金)



< 人権・同和教育HR活動 >

定時制では、10月8日(金)に人権・同和教育HR活動を実施しました。
各学年・部で実施した内容について、簡単に紹介します。

昼間部 1年	「自他の尊重と人間関係づくり（グループ活動）」 ①自分の「短所」をワークシートから3つ選ぶ ②自分の「長所」をワークシートから3つ選ぶ ③グループのメンバーの「長所」をワークシートから3つ選び、伝え合う ④ワークシートを見比べて、「短所」と「長所」は表裏の関係であることに気づいたり、自分の良さに目を向けたりする。
昼間部 2年	「あなたならどう伝える？」 『アサーション・トレーニング』（グループ活動） ①3パターンのロールプレイを見る （待ち合わせをした友だちが30分遅れてきたのに全く謝らない時、どう言うか） ②3つのタイプの自己表現、『アサーション』を知る A「ジャイアンタイプ」「いばりやさん」攻撃的な自己表現 B「のび太くんタイプ」「もじもじさん」非主張的（受け身的）な自己表現 C「しずかちゃんタイプ」「さわやかさん」アサーティブな自己表現 ③よりよい伝え方をグループで考える （試験前、友だちが「英語のファイルを貸して」と言ってきたら、どう言うか）
昼間部 3年	「差別意識の背景 ～部落差別の起源（中世～江戸時代）と現代の課題について～ ①ポイントを確認し、DVDを視聴する。 ・差別されていた人たちの社会の中での役割や職業を確認する ・なぜ一般民衆は差別したのか、そのメカニズムを考察する ・差別が固定化したのはいつ頃からかを知る ②DVDの内容を考察し、社会から排除した理由や差別の不合理について考える。 ③差別の背景を考え、差別の解消に必要なことについて理解する。 ④身近な場面での偏見や差別の意識や問題について、自分のこととしてとらえる。
昼間部 4年	「結婚差別について考える」 ①「結婚相手の条件10」を考え、グループで発表する ②ロールプレイ「結婚相手はどんな人？」を体験する 子どもが結婚相手を親に紹介する場面で 結婚相手が 外国人、同和地区出身、HIV感染者、無職、障がいのある人 の場合、 親の立場ならどう答えるかを考え、演じ、グループで話し合う ③結婚において大事にしたいことは何か考える
夜間部 合同	「東京オリンピック・パラリンピックをとおして ～スポーツからみた偏見や差別」 ①東京オリンピック・パラリンピックを写真などで振り返る 授業者が大会スタッフとして参加したオリンピック・パラリンピックについて写真等を見ながら振り返る。 ②多様性が保障される社会をつくっていくために必要なこと、私たちが意識すべきことについて考える

(裏面へ続く)

1学期同様、各担任の先生が中心となって授業を実施しました。DVD視聴、ロールプレイング、ペアやグループでの活動を通して、自分自身や人との関わりについて、振り返ったり改めて気づくことがあったりしたのではないかと思います。授業後にみなさんが書いてくれた感想から、いくつか紹介します。

昼間部 1年生

- 自分から見た自分で、「自分の嫌なところ」が周りから見て良いところだったのでうれしかったです。ふだんあまり関わったことがない人とグループ活動をして、気づけたところがあって良かったと思います。
- 今日の学習を通じて、自分の良いところや相手の良いところに気づけたり、言ってもらえたりしてうれし
いし、相手の良いところを直接言えると、心もスッキリして気持ちが良いことだなあと思いました。相手に伝える大切さを改めて考えることができました。
- 今日のHR活動をしてみて、あまり自分を見つめてみるということをしないので、自分はこういう人なんだろうなどと自分で考えたり、周りの人から自分がこう見えていると言ってもらったりしてうれしかったです。そのイメージを伸ばしていけたら良いなあと思いました。

昼間部 2年生

- 伝えることの大切さ、思いやりの大事さが分かりました。私はのび太タイプなんだと分かり、あまり自己主張しないのは確かになと思いました。伝えるべきことは伝え、相手も自分も傷つけない言い方はとても大切だと思いました。
- 相手を傷つけないように優しい言葉を選んでいる人が多いなと思いました。内心では怒っていても、相手に感情をぶつけるのではなく、自分から相手を気遣うことで関係を良好に保つことができる気がします。
- この方法だと自分が少しずつつらくなっていくので、私はあまり納得ができません。これが正解なら、自分ががまんすればいいとなるので、この方法を押しつけるのはよくないと思います。

昼間部 3年生

- 情報不足でいろいろな差別につながっていくことはとても怖いことだと思いました。差別されてきた人々は、(差別してきた人々にとって)生活していくうえで必要不可欠な存在であったことに気づいてほしかったと思います。今、私が生活している中で、もしかしたら自分では気づかなくても差別していることがあるかもしれないし、やっぱり、どんな人に対しても皆同じように接していかなければならないと改めて思いました。
- 今回のHR活動で改めて差別は絶対にしてはいけないものだということに気づかされました。部落差別の起源や理由も理不尽なものが多く、正しい情報を得ることが一番大切だと感じました。生まれなどで差別をしないために、これからも正しい知識を身につけていきたいです。
- 今日のHR活動みたいに何で差別ははじまったかなどは聞いたことがなかったので、知識が増えました。自分が想像していたよりも昔からあって、今でも部落差別などが実際にあるという話を聞いたりするので、根強く残っているんだなと思いました。

昼間部 4年生

- 自分が好きになった相手と結婚することはすてきなことだと思っています。好きになった相手ならどんな人でもと考えていました。最近では、同性愛者の結婚も認める国が増えてきています。良いことだと思います。
- 自分にとって結婚はまだ先のことだと思っていましたが、来年は成人になるので、こういうことについて考えるのはとても大事だと感じました。しっかり考えていくべきことだと思いました。
- 差別が完全になくなるということは難しいけれど、減らすことはできるから1人1人が気をつけるべきことだと思う。結婚に関しては、正直、親が入ってくるのはおかしいと思うけれど、心配するのは当たり前だと思うから、そこは話を聞く方がいいと思う。

夜間部 合同

- 差別をするなど言っている黒人も、アジア人を差別したりしている現状があるので、難しいかもしれないが、抗議などを続けることで、少しずつでもなくす方向に進めていかなければならないと思った。
- 体操の写真の中で、先生を見つけた。すごい。

(人権・同和教育担当：高木)



< あたりまえの毎日を大切にしよう >

数年前のこの時期、同じ学校に勤務していた方が急逝されました。当時も今も、もっと話をすればよかった、話を聴けばよかった…など悔やまれることがたくさんあります。そのことがあり、「いつ何が起るかわからない、だから、常に、周りの人々との関わりを大切にしよう、あたりまえの毎日を大切にしよう」と思っています。

(人権・同和教育担当：岡崎)